



2025年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年1月14日
東

上場会社名 株式会社鉄人化ホールディングス 上場取引所
コード番号 2404 URL <http://www.tetsujin.ne.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 根来 拓也
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 浦野 敏男 (TEL) 03-3793-5117
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年8月期第1四半期の連結業績(2024年9月1日~2024年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第1四半期	1,820	14.3	△83	—	△46	—	△56	—
2024年8月期第1四半期	1,592	11.9	△99	—	△90	—	△103	—

(注) 包括利益 2025年8月期第1四半期 △59百万円(—%) 2024年8月期第1四半期 △104百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2025年8月期第1四半期	円 銭 △4.25	円 銭 —
2024年8月期第1四半期	円 銭 △7.85	円 銭 —

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年8月期第1四半期	百万円 4,411	百万円 163	% 3.4
2024年8月期	4,326	223	4.9

(参考) 自己資本 2025年8月期第1四半期 151百万円 2024年8月期 211百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年8月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2025年8月期	—	—	—	—	—
2025年8月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年8月期の連結業績予想(2024年9月1日~2025年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,030	13.6	182	164.0	158	333.7	105	—	7.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 2社(社名) 株式会社鳥竹 ミライアミュー、除外 1社(社名)
ズ株式会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年8月期1Q	13,647,362株	2024年8月期	13,647,362株
② 期末自己株式数	2025年8月期1Q	459,100株	2024年8月期	459,100株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年8月期1Q	13,188,262株	2024年8月期1Q	13,186,062株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の回復により景気の緩やかな回復傾向が見られたものの、不安定な海外情勢や円安を背景とした原材料価格・エネルギー価格の高騰、物価上昇基調による消費者の購買活動の不安定さ、また、今後のアメリカの政策動向による懸念も重なり、景気の先行きは、不透明な状況となっております。

当社グループが展開する各事業においては、個人需要の持ち直しが見られるものの、経済活動の正常化を背景としたテナント更新時の家賃の上昇、人手不足を背景とした人件費・求人費の増加、原材料費の増加、一部事業における物流費の増加など事業運営コストが増加傾向となったことで、厳しい経営環境となっております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高1,820百万円（前年同四半期比14.3%増）、経常損失46百万円（前年同四半期経常損失90百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失56百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失103百万円）となりました。セグメントの業績は次のとおりです。

(カラオケルーム運営事業)

当第1四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は862百万円（前年同四半期比4.0%増）、セグメント損失15百万円（前年同四半期セグメント利益5百万円）となりました。

当事業における第1四半期（9月～11月）は例年「閑散期」となっております。

カラオケ需要は、個人利用、ビジネス利用が回復傾向となりましたが、二次利用がコロナ禍前と比較して大幅に減少しております。また、新宿・渋谷などの大繁華街での需要回復が大幅に遅れており厳しい業績となっております。

一方、当事業で展開しておりますアニメ・ゲーム等コンテンツとのコラボレーション企画に特化したコラボ完全特化型カラオケ店舗「カラオケの鉄人コラボミックス」は、好調な業績で推移いたしました。引続き、地方都市を中心に新店を計画してまいります。

比較可能な既存店※は36店舗で売上高は前年同四半期比99.5%となりました。

(飲食事業)

当第1四半期連結累計期間における飲食事業の売上高は421百万円（前年同四半期比49.1%増）、セグメント利益9百万円（前年同四半期セグメント利益14百万円）となりました。

飲食事業は子会社である株式会社直久が運営する「直久」をブランドとしたラーメン店舗（直営8店舗、FC5店舗、業務受託1店舗）を主力とするほか、「赤から」3店舗、「京都勝牛」、「福包酒場」、「鳥竹」を運営しております。

比較可能な直営既存店※は11店舗で売上高は前年同四半期比106.8%となりました。

当事業においては、日常的な外食需要が回復したことで、堅調な業績推移となりました。

ラーメン業態においては、工場生産の一部材料をOEM化することで生産体制の改革を進めております。

また、当期間より新たに焼き鳥専門店として「鳥竹」が同事業に加わったことで、収益性が向上しております。

(美容事業)

当第1四半期連結累計期間における美容事業の売上高は450百万円（前年同四半期比7.1%増）、セグメント利益23百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

美容事業は、中京エリアを商圏とする株式会社Rich to（10店舗）と首都圏エリアを商圏とするピアンカグループ（49店舗）により運営しております。

当事業では、堅調な業績を背景に積極的な新店戦略を進めております。同時に、スタイリストの採用（新卒・中途）・教育にも計画的に取り組んでおり、2025年4月の新卒者においては、前期を大幅に上回る内定で進めております。

比較可能な既存店※は53店舗で売上高は前年同四半期比101.6%となりました。

(メディア・コンテンツ企画事業)

当第1四半期連結累計期間におけるメディア・コンテンツ企画事業の売上高は15百万円（前年同四半期比12.7%減）、セグメント利益は12百万円（前年同四半期比13.4%減）となりました。

「カラオケの鉄人モバイル」サイトを中心に運営を行っておりますが、フィーチャーフォンからスマートフォンへの乗換えが進み減収・減益となっております。

(その他)

当第1四半期連結累計期間におけるその他の売上高は70百万円（前年同四半期比67.1%増）、セグメント利益は16百万円（前年同四半期セグメント損失29百万円）となりました。

2022年3月より新事業の試みとして開始したゲームコミュニケーション事業（通称e-sports事業）に加え、当期よりダンス・ヨガ・トレーニング等での利用を目的としたレンタルスペース事業を開始いたしました。

※ 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比較して85百万円増加し、4,411百万円となりました。流動資産は1,464百万円となり112百万円減少いたしました。主な要因は、クレジット等の売掛金が31百万円や店舗賃料の前払費用18百万円などが増加し、現金及び預金が27百万円、未収入金が45百万円、未収消費税等が79百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は2,946百万円となり197百万円増加いたしました。主な要因は、建物及び構築物をはじめとした有形固定資産が61百万円、繰延税金資産が41百万円、差入保証金が28百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比較して144百万円増加し、4,247百万円となりました。流動負債は1,976百万円となり108百万円減少いたしました。主な要因は、買掛金が17百万円増加し、未払消費税等が106百万円が減少したこと等によるものであります。固定負債は2,271百万円となり253百万円増加いたしました。主な要因は、長期借入金が220百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比較して59百万円減少し、163百万円となりました。主な要因は、当第1四半期純損失による利益剰余金56百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当該事業は、忘年会・新年会等季節の第2四半期と歓送迎会等季節の第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期連結会計期間の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、当社グループは、コロナ禍で業績へ多大な影響を及ぼした同一業種に過度に依存する収益構造を改善すべく、コロナ禍でも堅調な業績であった美容事業へ積極的に投資しており、また、他の事業への投資もM&Aを含め積極的に検討する方針ですが、投資した事業の収益が想定外に悪化した場合には、当社グループ全体の業績に影響を受ける可能性があります。

・カラオケルーム運営事業

当事業におきましては、ビジネス層の需要回復が見られるものの、二次会の利用控えが引き続き続いております。新宿・渋谷などの大繁華街においては、需要回復が特に遅れており、厳しい事業運営となっております。

なお、これらの状況は、業績予想に織り込み済みとなっております。

今後の業績としては、年末年始、3月・4月の歓送迎会の大型需要が見込めるものと想定しております。

・飲食事業

当事業におきましては、日常的な外食活動とインバウンド需要の回復により、堅調な業績を見込んでおります。

当期におきましては、当社グループに新たに加わった「鳥竹」（焼き鳥専門店）の経営統合を進めており、業績への貢献を見込んでおります。

・美容事業

当事業におきましては、引続き積極的な新店を図るとともにスタイリストの採用（新卒・中途）と技術教育を強化し、事業収益の拡大を進めております。

・メディア・コンテンツ企画

当事業におきましては、スマートフォンでの利用者の減少傾向により前期同等程度の減収・減益を見込んでおります。

以上の状況により、現時点における当連結会計年度の業績予想につきましては、2024年10月15日に公表いたしました2025年8月期の通期の連結業績予想に変更はありません。

※当該業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	738,605	710,607
売掛金	330,236	361,871
商品及び製品	40,082	36,461
原材料及び貯蔵品	90,568	87,287
その他	380,982	271,552
貸倒引当金	△2,974	△2,974
流動資産合計	1,577,500	1,464,805
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,026,151	1,049,996
工具、器具及び備品（純額）	85,356	94,812
その他（純額）	360,670	388,589
有形固定資産合計	1,472,178	1,533,398
無形固定資産		
のれん	66,839	108,342
その他	14,391	20,195
無形固定資産合計	81,230	128,537
投資その他の資産		
差入保証金	1,173,129	1,201,892
その他	25,500	86,146
貸倒引当金	△3,290	△3,291
投資その他の資産合計	1,195,339	1,284,747
固定資産合計	2,748,748	2,946,683
資産合計	4,326,248	4,411,488

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	137,915	155,021
短期借入金	600,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	519,028	499,708
未払費用	466,421	424,876
未払法人税等	28,063	11,181
前受金	7,916	6,836
賞与引当金	25,936	28,661
ポイント引当金	18,652	17,108
その他	281,050	232,754
流動負債合計	2,084,984	1,976,149
固定負債		
長期借入金	1,505,615	1,725,657
退職給付引当金	—	34,534
資産除去債務	419,560	421,459
その他	92,563	89,863
固定負債合計	2,017,738	2,271,515
負債合計	4,102,723	4,247,664
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	151,146	151,146
利益剰余金	189,797	133,681
自己株式	△170,067	△170,067
株主資本合計	220,876	164,760
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△9,541	△13,128
その他の包括利益累計額合計	△9,541	△13,128
新株予約権	12,190	12,190
純資産合計	223,525	163,823
負債純資産合計	4,326,248	4,411,488

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年9月1日 至2024年11月30日)
売上高	1,592,295	1,820,547
売上原価	1,464,043	1,645,332
売上総利益	128,251	175,215
販売費及び一般管理費	227,803	258,256
営業損失(△)	△99,552	△83,040
営業外収益		
受取利息	6	1
受取保険金	—	77
助成金収入	11,584	9,544
協賛金収入	—	553
為替差益	469	3,196
その他	5,756	36,837
営業外収益合計	17,817	50,211
営業外費用		
支払利息	8,310	9,393
支払手数料	—	2,389
その他	711	1,632
営業外費用合計	9,022	13,414
経常損失(△)	△90,756	△46,243
特別利益		
固定資産売却益	—	321
新株予約権戻入益	135	—
特別利益合計	135	321
特別損失		
固定資産除売却損	1,035	1,069
店舗閉鎖損失	248	—
減損損失	1,925	—
特別損失合計	3,209	1,069
税金等調整前四半期純損失(△)	△93,830	△46,991
法人税等	9,694	9,124
四半期純損失(△)	△103,524	△56,115
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△103,524	△56,115

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
四半期純損失(△)	△103,524	△56,115
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△526	△3,586
その他の包括利益合計	△526	△3,586
四半期包括利益	△104,051	△59,701
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△104,051	△59,701
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当社は当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合については、重要な加減算項目を加味し、法定実効税率を使用して計算しております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	35,430千円	36,673千円
のれんの償却額	7,560千円	10,001千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	829,370	282,728	420,700	17,389	1,550,188	42,106	1,592,295	-	1,592,295
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	829,370	282,728	420,700	17,389	1,550,188	42,106	1,592,295	-	1,592,295
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	5,597	14,620	23,397	14,858	58,474	△29,368	29,106	△128,658	△99,552

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△128,658千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△128,658千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「美容事業」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんが減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、当第1四半期連結累計期間において、1,925千円であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	カラオケ ルーム運 営事業	飲食事業	美容事業	メディ ア・コン テンツ企 画事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	862,748	421,683	450,596	15,179	1,750,207	70,339	1,820,547	-	1,820,547
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	862,748	421,683	450,596	15,179	1,750,207	70,339	1,820,547	-	1,820,547
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	△15,404	9,187	23,472	12,873	30,129	16,550	46,679	△129,719	△83,040

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△129,719千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△129,719千円が含まれております。全社費用は主に親会社本社のグループ管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、カラオケルーム運営事業を主たる事業としており、一般のカラオケルームでの楽曲・飲食サービス提供の他、アニメ作品等とコラボレーションしたカラオケルーム運営をしております。その他、ラーメン店を主体とした飲食事業、マツ毛エクステ&ネイルを主体とした美容事業、着メロ等の配信を行うメディア・コンテンツ企画事業を事業ドメインとして運営しております。

前第1四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	753,474	47.3
	コラボルーム売上	75,896	4.8
飲食事業	店舗販売	243,251	15.3
	卸売	16,142	1.0
	F C	23,335	1.5
美容事業	施術サービス	398,607	25.0
	物販	21,411	1.3
	卸売	682	0.1
メディア・コンテンツ企画事業		17,389	1.1
その他		42,106	2.6
顧客との契約から生じる収益		1,592,295	100.0
その他の収益		—	—
外部顧客への売上高		1,592,295	100.0

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)

(単位：千円)

報告セグメント	契約区分	売上高	構成比
カラオケルーム運営事業	カラオケルーム売上	728,946	40.0
	コラボルーム売上	133,802	7.4
飲食事業	店舗販売	384,538	21.1
	卸売	14,937	0.8
	F C	22,208	1.2
美容事業	施術サービス	426,453	23.4
	物販	23,097	1.3
	卸売	1,046	0.1
メディア・コンテンツ企画事業		15,179	0.8
その他		70,339	3.9
顧客との契約から生じる収益		1,820,547	100.0
その他の収益		—	—
外部顧客への売上高		1,820,547	100.0

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「アニメ等コラボレーション事業」等を含んでおります。